

2016 年度活動報告 CJP 授業：口頭表現 B

牛窪 隆太（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

選択クラスの一つとして、主に現代日本プログラム日本語専攻コースで学ぶ日本語学習者（3 レベルから 4 レベル）を対象に週に 1 コマ（90 分）開講した。特定の教科書は用いず、学期期間を通して二つの活動を同時並行で進めた。一つ目の活動は、毎週決められたトピックについて表現を学び、自分のことや意見を話す活動である。3 レベルの学生に対して表現面でのフォローを行いながら、自由に話してもらい、まずは様々なトピックについて表現することに慣れるための活動を実施した。もう一つはインタビュー活動である。多様な意見を自分なりの視点でまとめることを意図して、自身の興味をもとにテーマを決め、インタビューを実施し、結果をポスターにまとめて発表する活動を実施した。

2. 授業内容

各回の授業は、概ね以下の順序で行った。①トピックの導入・挑戦会話、②表現の確認・練習、③ペアを変えて同じトピックについて再会話、④インタビュー活動の準備。異なるレベルの学生が混在していたため、①はできるだけ毎回異なるペアで話すようにしてもらった。わからない表現を意識したうえで②で表現を練習し、③で再度同じトピックについて話すことで、段階的に必要な表現を使って話せるようになることを目指した。授業後半は、二つのインタビューを実施し、まとめた結果についてポスター発表を実施した。一つ目は「魅力的な人」を選び、その人の魅力について紹介する活動である。この活動で一人の話をじっくり聞き内容をまとめることで、二つ目の活動につなげることを意図した。二つ目の活動では、10 名以上にインタビューした結果から、テーマについて自分なりの結論を出すというやや難易度の高いタスクを設定した。授業では、グループになり段階的に進捗状況を報告することで、3 レベルの学生にとっても無理なく活動が進められるよう配慮した。

3. 成果と今後の課題

表現を練習しながらも、できるだけ自由に話す時間を多く取ったこと、またインタビュータスクという自分のペースで進められる課題を設定したことで、日本語で話すことに自信がない学生からも、話す機会が多くあったことについて高い評価が得られた。その一方で、ある程度話せる学生にとっては、タスクに物足りなさを感じることもあったようである。話せる学生に対して、タスクの負荷をどのようにかけていくのかを今後の課題としたい。